

『an-an』読者による恋愛マニュアル記事の読み方をめぐる研究

古尾谷 奈未

「マニュアル男」。それは、女性とのデートを完璧に成功させたいという強い思いから、恋愛マニュアル記事を隅から隅まで読み、どのような状況においてもそのマニュアルに固執し実践する男のことを総称してそう呼ばれた。マニュアル男は1980年代に男性誌『ポパイ』や『ホットドックプレス』等の影響から生まれた。そもそも雑誌ブームの起源は、1970年代に『an-an』と『non-no』という女性ファッション誌二大雑誌が登場しアンノン族ブームが起こったことにあるが、現在の女性誌『an-an』は、ファッション誌の機能とは一変して、恋愛マニュアル本としての地位を確立したと考えられる。

では、「恋愛マニュアル本」の一つとされる『an-an』読者が「マニュアル女」と言われたいのはなぜなのか。そこで『an-an』読者に質的調査法を用い、ライフストーリーの結婚観への影響等に焦点を当てつつインタビューを行った。女性の読者をキャリア志向型と専業主婦志向型に分け、「キャリア志向型読者（男性により近い意識をもつため）マニュアル的な捉え方をし、専業主婦志向型読者は非マニュアル的に捉えるのではないか」という調査仮説を立てたが、結果は概ね真逆となった。専業主婦志向型読者の理想の結婚年齢は25歳が平均で、早く結婚を望んでいるため、『an-an』を恋愛マニュアルとして適度に活用し、相手を見つけることに役立てていた。それに対し、キャリア志向型読者は恋愛マニュアルを実践している人は0人という結果が出た。また、キャリア志向型読者は、恋愛に悩んで相手に相談したとき、相手に答えは求めていないが占いを信じるという一見矛盾する結果がでた。このことをさらに追調査していくと、キャリア志向型読者は専業主婦志向型読者よりプライドが高い人が多く、恋愛に関して人の意見に左右されたくないという考えを持っているものの不安な気持ちがあるので占いを参考にするということが分かった。

そして、編集者に読者の読み方についてインタビューを行ったところ、『an-an』の読み方は人それぞれで良いと考えているが、『an-an』は「恋愛マニュアル本」ではないという認識であった。恋愛マニュアル特集は『an-an』の制作軸である「20代前半から30代の女性が気になる旬な情報を伝えていきたい」という思いで特集を組んでいる中の一つにすぎないということであった。加えて、『an-an』の特集には必ず信憑性を上げるために、各々のテーマのスペシャリスト数人にインタビューを行うため、現在の現実とずれているいわゆる「マニュアル」にはなっていないと分かった。総じて、『an-an』読者における「マニュアル女」は、男性誌から生まれた「マニュアル男」とは違い一から十までの恋愛テクニックを実践するわけではなく、マニュアル記事は参考にしているが、確認のために記事を読むことも多いことが判明した。また、『an-an』は恋愛を細かくパターン化している恋愛記事が多いため、男性側にワンパターンの反応を示すことにはならず、それがマニュアルの行動と意識させない鍵なのではないだろうか。（指導教員 後藤嘉宏）